

予報期間 9月13日から9月19日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 15日は、前線が日本の東から東・西日本付近にのびる。高気圧が黄海付近に移動する。
- 16日から17日は、高気圧が日本海から千島近海へ移動し、前線が日本の東から本州南岸付近にのびる。
- 18日から19日にかけて、高気圧が日本のはるか東に移動し、日本付近には高気圧後面の湿った空気が流れ込む。

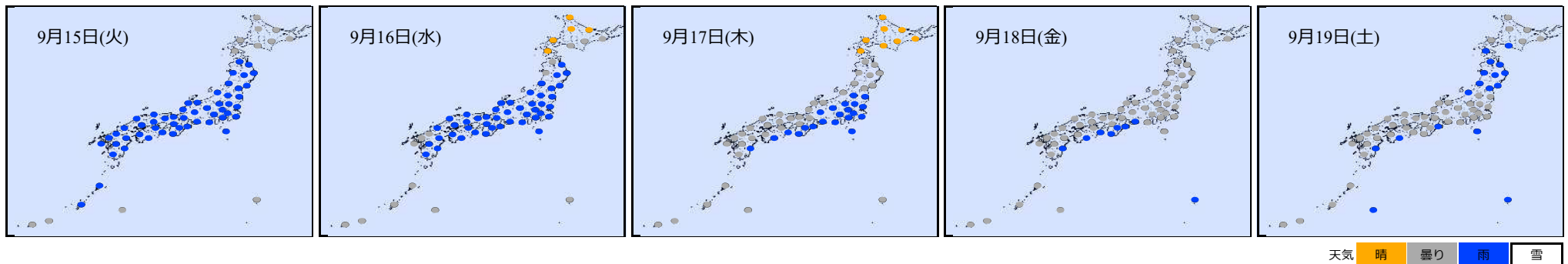
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 15日にかけて、東日本日本海側では前線や暖かく湿った空気の影響で大雨となる所があり、前線の活動の程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

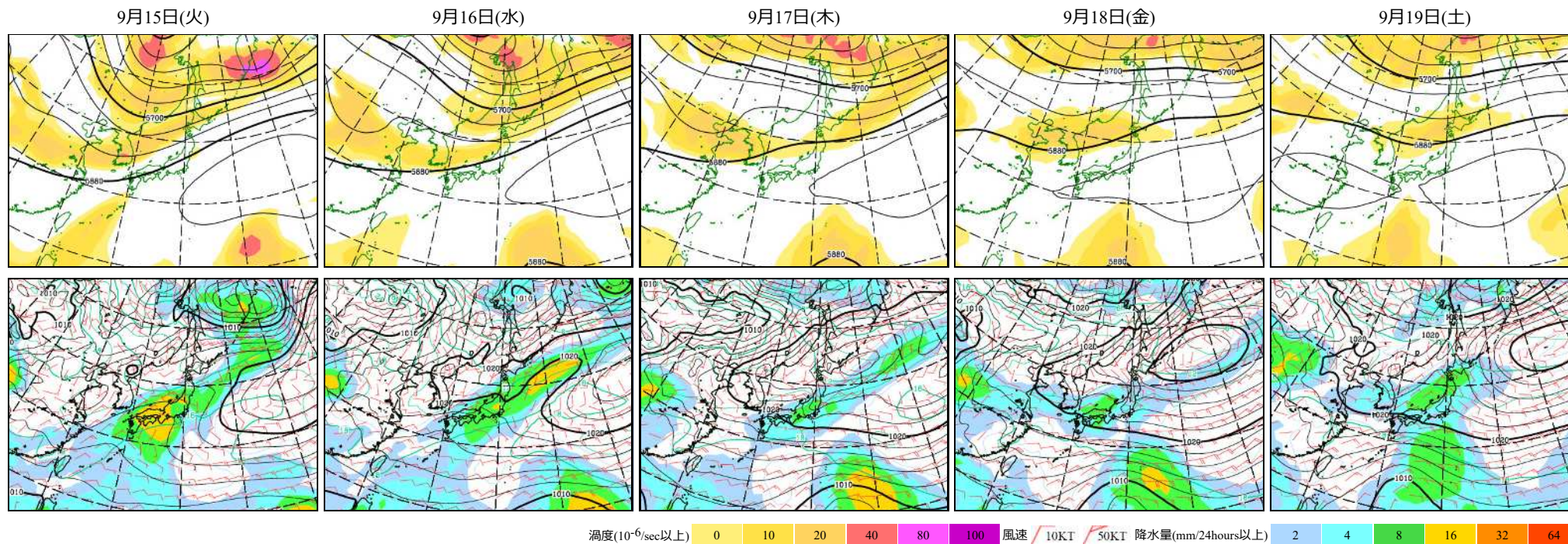
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

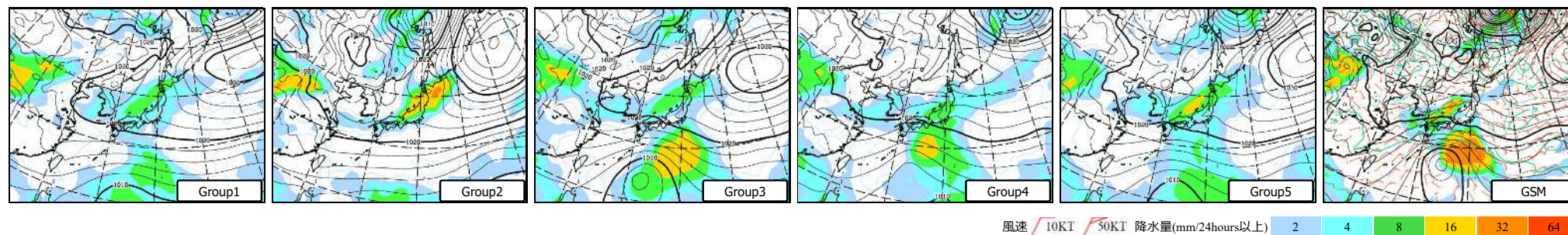


- 北海道地方は、晴れる日もあるが雲が広がりやすく、19日は雨の降る頃がある。
- 東北地方、東日本、西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、15日と19日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月19日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、17日から18日にかけてリッジが日本海を進む予想になった。地上の気圧配置は、17日から18日にかけて千島近海を移動する高気圧が強くなった。
- GSMとNCEPは、16日に北日本に進むトラフが深くなり、その後はリッジが日本海に進む予想となった。昨日と比べて、モデル間の差は小さくなった。
- 各モデルともに、19日に熱帯じょう乱が日本の南に進む予想をしている。ENSは、同様の予想をするメンバーが3割程度あるが、熱帯じょう乱の位置や発達にはばらつきがある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。